

## 本当に必要とされるこども園を ともにつくるともに育てる



NPO法人こどもコミュニティケア

代表理事 末永美紀子さん

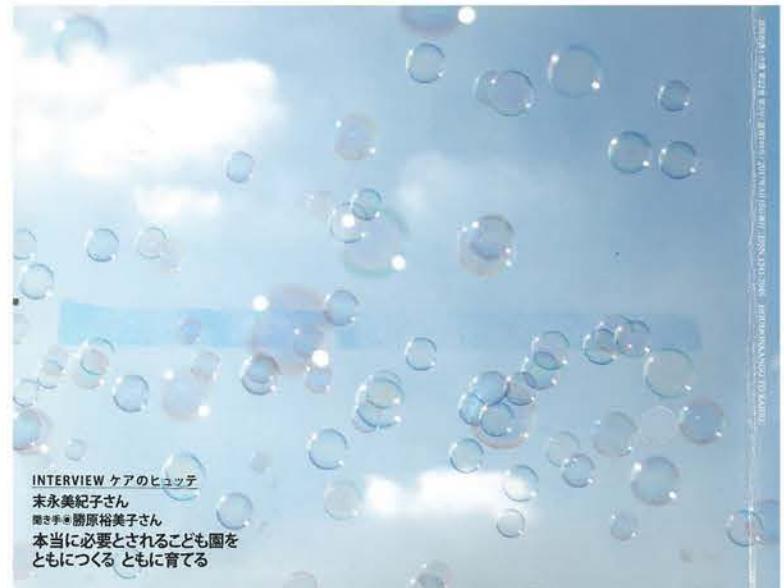
聞き手=勝原裕美子（オフィス KATSUHARA代表）

障害のある子もそうでない子も一緒に育ってほしいという願いを胸に、“第三のおばあちゃんち”みたいな保育園が必要！と、NPO法人こどもコミュニティケアをつくった末永美紀子さん。子ども1人ひとりにとってベストな環境をつくるために、多職種協働と地域連携でひた走ってきた道のりを伺った。

構成・撮影◎神保康子 写真提供◎ NPO法人こどもコミュニティケア

心の落ち着きが、よいケアを導く  
**訪問看護と介護**  
医学書院  
2017年  
3月号  
vol.22 no.3

特集  
在宅でケアする人にも役立つ  
**マインドフルネス入門**



INTERVIEW ケアのヒュッテ  
末永美紀子さん  
聞き手=勝原裕美子さん  
本当に必要とされるこども園を  
ともにつくるともに育てる

## 子どもができると 辞めざるを得ないのはなぜか

——勝原(以下、太字) じつは末永さんは、

私が兵庫県立看護大学(現兵庫県立大学看護学部)

の教員をしていたときの教え子なんですよね。

今日は逆に私のほうが教わりにきました。

まず、看護師として病院で働きながら、なぜ保育園をつくりたいと思ったのか、教えてください。

未永(以下、略) 学生時代の講義で、いちばん印象に残っているのが、じつは勝原先生でした。今日はその先生に来ていただけて、とてもうれしいです。

私が病院勤務をしていた当時、病棟看護師は全員がフルタイムで、しかも夜勤もできるというものが原則でした。院内託児所も時間の制限があり、一般の保育園も18時か19時には迎えに行かなければならない。育児休業前はチームリーダーとしていきいきと働いていた先輩たちが、がんばって復帰しても1~2か月でギップアップするケースを何例も目の当たりにしていました。

働き盛りの中堅看護師が、辞めたくないのに辞めざるを得ないので。本人もつらいで



みんなで川の字になって、ゴロゴロゴロゴロ。



天気のいい日は、広いテラスでお遊び。

かわらず、「手術をしても幸せになると思えない」と、どうしても家族から同意をもらえないというケースがありました。たとえば、病気や障害があつても生きていけるんだといふことを、世の中のもつともっとたくさんの人が知っていたら……という思いが、私の中にずっとあります。

だから、保育園をつくるうと思つたときに、お母さんが仕事を続けられる保育園でありたいというのと同時に、どんな子どもたちと一緒に育つような保育園をつくりたいと思いました。ここにいる子どもたちは保育園のときにはどんな子がいたか、覚えていないかもしれません。それでも、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんが、わが子が、わが孫が、障害や病気をもつていてもいなくても当たり前と一緒に過ごしている姿を見ることで、少しずつでも社会の理解が深まつていってほしいというのが、私のチャレンジです。

ここにいる医療的ケアの必要な子どもたちは重症心身障害児ばかりではなく、気管切開などの医療ケアが必要だけれど走り回っている子もたくさんいます。「子どもが子ども社会に参加する」というのは基本的人権だと思います。「障害者差別解消法」によって、合理的配慮という考え方と方法がやっと周知され

### \*1 合理的配慮

障害のある人の人権が、障害のない人と同じように保障され、教育や就業、他の社会生活において、社会の制度や環境が障壁となって起きる障害や困難を取り除くために行われなわれる個別の調整や変更のこと。たとえば、車いすを使用している人のためにスロープやエレベーターを設置することなど。

## 誰もが通えるような 小さなこども園があれば

——末永さんは保育士免許もとられましたね。

すし、病院としても人材の損失で、後輩の私たちも「困る。辞めないで!」と思い、患者さんにとっても頼もしいベテランがいなくなるのはマイナスで、「これでは誰もハッピーじゃない」と感じていました。

そんななかでも仕事を続けられるのは、おじいちゃんおばあちゃんの家が近いか同居している人でした。だから、「第三のおばあちゃんち」のような家庭的な保育園があつたら辞めずに済むのかもしない、と考えていました。

——障害のある子も医療的ケアの必要な子もそうでない子も一緒に、という発想はどこからきたのですか。

病院に勤めていたときに、たとえば、心臓

の悪い子が手術などの治療を終え、症状も安定して退院しても、「心臓が悪いから」と地域の幼稚園や保育園に入れてもらえないという実態を知りました。そういう子どもは、「何かあつたら怖いから」とおじいちゃんおばあちゃんにも預かってもらえないかつたりします。

また、退院時に医師は「風邪、ひかせんといてな」と言いますが、「そんな無茶な」と思いました。もしその子が風邪をひいても、「皆ひくんやから、しゃあないしやあない」と言つてあげたいと思つたし、1人で重い責任を負つていたお母さんたちの姿は今も忘れられません。

もう1つ、先天性の病気で入院していたある赤ちゃんが、手術で治る見込みが高いにも



末永美紀子(すえながみきこ)

看護師・保健師を取得後、和歌山県立医科大学附属病院・兵庫県立こども病院に勤務。「子育しながらできる小児看護の仕事をしよう」と、出産退職後に「ちっちゃん保育所」を開設。2008年にNPO法人化。

公的制度ない「医療的ケア児との共生保育」とその関連事業に対し、これまで助成をしてくれた民間企業・財団は20以上。制度と制度の間には隙間が生じやすく、その隙間を埋めるのは「今、目の前にいる人々」のために職域を超えて手をつなぐ「のりしろ」をもつ専門職と市民・寄付社会であると感じ、地域住民や他分野のNPO、家庭的・小規模保育の仲間とのつながり、保育・看護教育関係者の共同研究や勉強会も大切にしている。次世代育成のために社会福祉系、看護学生の実習も受け入れ、職員の自主学習や多様な働き方を支援するために、最近、経営学も学び始める。夫と男の子2人の4人暮らし。

保育園というのは、構成メンバーのほとんどが保育士です。保育士さんのものの見方を理解するためには保育の世界にしっかり身を浸し、共通言語をもつことが必要だと思いました。

保育士は子どもたちをグループととらえて関わっています。看護師はそれぞれ1人ずつを個別に見てアセスメントします。この両方から見たら、より多角的に子どもを見ることができると思います。私たちが基礎においているシユタイナー教育<sup>②</sup>も、通常の保育や幼児教育、学校教育が理解する子どもの像を拡張するものであって、否定するものではないんです。視野が広がるということは、それだけ子どもを全人的に理解できる、あるいは家族をよりトータルに理解することにつながると考えています。

——実際に事業を立ち上げたときのことを聞かせてもらえますか。

先輩たちを見て、妊娠前から、自分の体力では病院で働きながら子育てするのはとても無理だと思い、働き続けるための別の手立てはないかと探していました。当時、神戸市には病児保育の施設がなかったので、最初は看護の専門性も活かせる病児保育室をつくろうと思いました。保育士をしていた友達に声をかけてもらいました。

内見し、そのなかでこちらの事情を理解してくださった医師が、空いていた家を5年間限定で貸してくれることになりました。

2004年に、そこで「ちっちゃん保育所」を始めました。今の小規模保育事業のようないくつかの制度はなかったので、公的補助のない認可外保育施設です。定員は12人。行政からは一切の補助がありませんから保育料を高めに設定するしかなかったのですが、いつも定員いっぱいで、ニーズはあるとわかりました。それでも、民間財団や研究助成の細かい助成金でつなぎながらの運営でした。

そうこうするうちに、期限の5年が近づいてきました。家庭的な保育を継続でき、定員も増やし、保育士の休憩室もある建物をつくりたかったのですが、私はその資金がなかつたため、結局、夫に住宅ローンを組んでもらい、2009年に自宅兼用の一軒家を建て、「ちっちゃんこども園にじいろ」と改称して移転しました。

## 休園決定から一転 保育ママ制度で継続へ

——その「にじいろ」は順調にいったのですか。

それが、定員が増えても、だんだん人件費



### \*2 シュタイナー教育とは

20世紀初頭のオーストリアの哲学者ルドルフ・シュタイナーが提唱した「教育芸術」としての教育思想・実践。ヴァルドルフ教育とも呼ばれる。「教育論を勉強していたときにシュタイナー教育のことを知りました。保護者たちがつくった京田辺シュタイナー学校のことを知って衝撃を受け、『保育園も自分でつくれればいいんだ』と気づかせてもらいました。

シュタイナーの『自由への教育』という考え方を、私は『自由とは、外の権威やそれまでの慣習・他人の意見・世の中の動向のみに振り回されないで、それらを参考にしつつも、自分で感じ取り、考え、決定し、行動できること』と解釈しています。子どもたちは同じ遊びをくり返し、同じ本を何度もめくり、自分の興味のあることに没頭したり、ぼーっとしていたりするなかで世界と自分を知り、そこから行動していく力や考える力、協力しながら幸せに生きていく力が育まれていくのだと思っています」(未永さん)

### 放課後等デイサービス事業所(児童デイサービス)

も上がり、医療依存度の高いお子さんが来るなど、その分人手もかかるため、赤字が重なつていきました。そもそも、所得に応じた保育料設定ができる認可保育園が近隣にあるうえ、医療的ケアが必要なお子さんの保護者は働けないことも多いので、毎日、保育を利用するわけではないのです。ようやく慣れてきた子が経済的理由で認可園に移ったりして、スタッフもモチベーションを保つのが難しいと感じていたようです。

その頃、障害児対象の指定児童発達支援・

内見し、そのなかでこちらの事情を理解してくださった医師が、空いていた家を5年間限定で貸してくれることになりました。

2004年に、そこで「ちっちゃん保育所」を始めました。今の小規模保育事業のようないくつかの制度はなかったので、公的補助のない認可外保育施設です。定員は12人。行政からは一切の補助がありませんから保育料を高めに設定するしかなかったのですが、いつも定員いっぱいで、ニーズはあるとわかりました。それでも、民間財団や研究助成の細かい助成金でつなぎながらの運営でした。

そうこうするうちに、期限の5年が近づいてきました。家庭的な保育を継続でき、定員も増やし、保育士の休憩室もある建物をつくりたかったのですが、私はその資金がなかつたため、結局、夫に住宅ローンを組んでもらい、2009年に自宅兼用の一軒家を建て、「ちっちゃんこども園にじいろ」と改称して移転しました。

かけ、インターネットのある掲示板に、「病児保育室をNPO法人で始めたい」と書き込んだところ、たまたまそれを見た近所の小児科の開業医師がメールをくれました。その先生はすでに病児保育室の必要性をずっと市に言い続けていて、ちょうどその数か月後に開設が決まったところだったのです。

出産までの短い間ですが、その病児保育室の開設のお手伝いをさせていただきました。開設後しばらくすると、先天性疾病をもつたお子さんが認可保育園で何度も何度も感染症にかかりてしまつて病児保育室に通つてきていました。先生と「子どもの人数がもつと少ない小規模の保育園が必要だよねえ」と話していく、「じゃ、私がやります」と手を挙げ、

——最初に立ち上げた保育施設は、どんなものだったのですか。

資金がとにかく少ないので、できるだけ経費を節約しようと思ったら、そこに住むのがいちばん安上がりなんですね。そこで、1階を保育園にして2階に家族で住もうと考えました。話を聞いた不動産会社の女性担当者が親身になつて探してくれ、150物件ぐらいFAXを送つてくれ、そのうち30物件ぐらい

始めたことになりました。

病児保育をやろうと思いついた頃、NPOの中間支援組織に相談に行き、民間の大小さまざまな助成金を教えてもらっていたので、その後、ありとあらゆる助成金に申請しました。



【聞き手】  
勝原裕美子 (かつはらゆみこ)

百貨店勤務ののち、看護の道へ。臨床から兵庫県立大学看護学部を経て、2016年3月まで聖隸福祉事業団執行役員、聖隸浜松病院副院長兼総看護部長。現在、「オフィスKATSUHARA」の代表として、医療・福祉・介護の組織開発や看護師のキャリア支援などを行なっている。

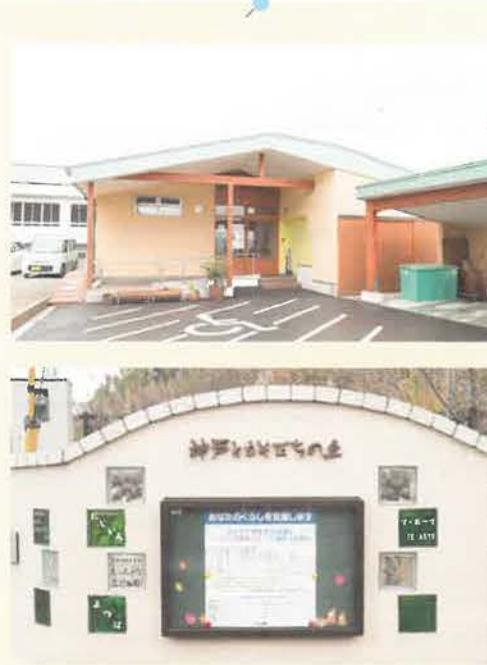
教育の現場では、未来の人たちを育てている。たくましく、しなやかに活躍する未永さんとの再会は、かつて「先生」と呼ばれていた私にはとてもうれしいことだった。その彼女の仕事も教育と似ている。すぐに何かが変わるのはではないけれど、子どもが、家族が、そして社会が気づいてほしいと感じているところに入り込み、時間をかけて人や組織を未来のために育てているのだから。

どうにもならないですよね。そこはどうやって乗り越えたのですか。

その後、たまたま神戸市のホームページをのぞいたら、翌年度からグループ型家庭的保育(保育ママ)事業を始めるための事業者の募集が出ていました。11月に公募、12月に選定、翌年3月に開設という短期間の強行スケジュールだったのですが、ありとあらゆる方にお願いし、協力してくださる連携保育園を探して、滑り込みで応募しました。市の事業などで国認可より条件がゆるい分、補助金も少なく障害児加算もないけれど、保育料は認可保育園と同じ所得に応じた負担額にできて、運営などの補助金があることでスタッフのお給料や保育の質を上げられると思うと、本当にうれしかった。その申請が通り、「にじいろ」と「神戸市保育ママふたば」を運営することになりました。

結局、保育ママの制度自体は2年で終わり、国の「子ども子育て支援法」による小規模保育事業に変わり、今の認可の「ちっちゃんこども園ふたば」となりました。国からの補助金が出て、障害児加算もつくことになりました。

——そこまでよく耐えられましたね。その結果、ここもつくることができたのですね。



西園舎(神戸ともそだちの丘の概観)とその入口

#### 特定非営利活動法人こどもコミュニティケア

活動開始: 2002(平成15)年12月(非営利団体として)

2008年5月NPO法人化

職員数: 28名(保育士15名、看護師5名、栄養士・調理師3名、保育補助・事務5名)のほか、ボランティア13名

#### 事業概要:

##### (1)保育事業

・ちっちゃんこども園にじいろ(2004年～) 定員: 14人  
・小規模保育事業ちっちゃんこども園ふたば(2012年～)  
定員: 12人

・小規模保育事業ちっちゃんこども園よつば(2015年～)  
定員: 19人

##### (2)子育ち支援事業

##### (3)子育て支援事業

##### (4)子どもの健全育成にかかる調査研究提言事業

##### (5)コミュニティ・スペースの運営事業

##### (6)法にもとづく障害児通所支援事業

・児童発達支援&放課後等デイサービス「て・あーて®  
Te・Arte (2015年～) 定員10人

住所 〒655-0052 兵庫県神戸市垂水区舞多聞東  
2-6-9

TEL/FAX 078-784-5333/078-742-9775

URL <http://children-cc.org/>

## 同じチャレンジをする人の お手伝いがしたい

に3施設一体の建物をつくりました。

——小さい園からだんだん大きくなつて、スタッフも理念を共有できる人たちが集まるようになり、利用者も順調に増え、これからどんなことをしていきたいですか。

スタッフにはいろんな年齢層やキャリアの人たちがいて、若い職員のロールモデルにな

れる人もいるし、チームとしての一体感もあります。私がぎりぎりマネジメントできる範囲なので、サイズ的には今ぐらいがいいかなと現時点では思っています。

昔からよく「〇〇県で同じような取り組みをしているところはないですか。うちの子を見ててくれるところを探してます」と悲痛な電話がかかってくるので、私たちと同じような取り組みにトライしてくれるところが全国にもっと増えてほしいと思います。気持ちがあるなら、やらないで後悔をするより、やつて

改善したほうがいいし、わからなかつたら保護者と一緒に知恵を絞ればいいんです。私の次のステップとしては、チャレンジしたいと考えているところに、なんらかのかたちで応援を行って、保育環境づくりや事業計画づくりなどを一緒に考えて、一緒に悩んでいたらいなと思っています。呼んでくれたらどこでも飛んでいきたいですけど、もちろんまずはこの4施設をしっかりと運営する基盤をつくるのが最優先です(笑)。



職員休憩室でリラックス。  
ペテラン保育士と若手期待の星。

木の温もりを感じる事務室。子どもたちが走り回る音や声がよく聞こえる。



いろいろな個性をもつ子どもたちを見る眼差しがとてもやさしい。この日勤務のスタッフ皆さんと。



国産木材をふんだんに使った建物は、自然と心も安らぐ。

## がんばる

特定非営利活動法人  
こどもコミュニティケア

代表理事 末永 美紀子

(看護師・保健師・保育士)

神戸市垂水区の明石海峡大橋を望む丘の上に  
「神戸ともそだちの丘」があります。  
NPO 法人こどもコミュニティケアが認可外  
保育施設「ちっちゃんこども園にじいろ」と小  
規模保育事業「ちっちゃんこども園よつば」、  
障がい児通所支援施設  
「て・あーて®」を運営しています。



# 『こどもたちの未来を担う、大切な環境づくり。』 大きな一歩をみんなで一緒に。私たちの願いです。』

開業小児科医の応援を得て、  
保育士や保護者と一緒に起  
ち上げました。「長時間保育  
となる医療関係者の子ども  
たちに、より家庭的であった  
かな保育を」というのも柱の  
ひとつです。

「おうち」のような環境で、  
兄弟のようにいろんな年齢  
の子どもたちが一緒に育つ  
環境を大事にしています。子  
どものニーズに当たり前に  
応えるために、手作りの夕食  
や入浴も毎日提供してきま  
した。最近は、育儿支援が行  
き渡ってきてイクメンパパ  
も増えてきたためか、お風呂  
に入ってから帰る子どもた  
ちはいなくなりましたが、夕食は相変わらず大家族のよ

2

004年に「みんな一  
緒に育ち合おう」を合

うにぎやかです。

医療的な配慮やケアが必要

門医、開業医、訪問看護師、保

健師、学校の先生もいっしょ

に会議をもつなどの「地域

チームケア」によって、ご本人

とご家族が笑顔で在宅で暮ら

せるよう支えていくのも、

直接の看護ケアとともに大き

な役割のひとつです。

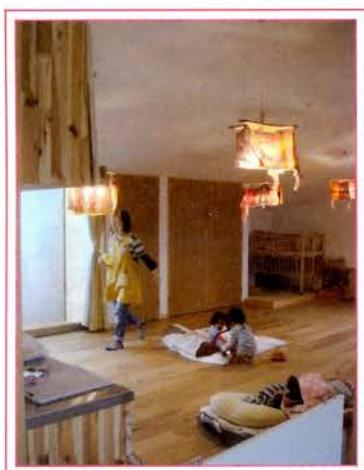
地域看護は関係者が多く、  
課題も複雑になりがちですが、  
長い期間にわたってかかる  
ことができる、家族丸ごとの  
ケアをし、成長と一緒に喜  
べるのも魅力です。これから  
は小児に限らず看護職が地域  
で活躍することが求められて  
いますので、多くの方と一緒に  
新しい地域看護を作りたいと思  
っています。

12

年前に比べ、地域で活  
躍する看護師が増え、  
放課後等デイサービスでも医  
療的ケアに対応するところや  
小児に訪問する看護ステー  
ションが増えてきましたが、

まだまだ不足しているのが現  
状です。

小児は進  
学などの環  
境の変化や  
疾病・障が  
いの状況の  
変化が速く、  
さまざま  
なまざまな  
医療・福祉・  
教育機関の  
連携が欠か  
せません。専



門医、開業医、訪問看護師、保  
健師、学校の先生もいっしょ  
に会議をもつなどの「地域  
チームケア」によって、ご本人  
とご家族が笑顔で在宅で暮ら  
せるよう支えていくのも、  
直接の看護ケアとともに大き  
な役割のひとつです。  
地域看護は関係者が多く、  
課題も複雑になりがちですが、  
長い期間にわたってかかる  
ことができる、家族丸ごとの  
ケアをし、成長と一緒に喜  
べるのも魅力です。これから  
は小児に限らず看護職が地域  
で活躍することが求められて  
いますので、多くの方と一緒に  
新しい地域看護を作りたいと思  
っています。